

THE YMCA

日本YMCA基本原則

私たち日本のYMCAは、イエス・キリストにおいて示された愛と奉仕の生き方に学びつつ世界のYMCAとのつながりのなかで、次の使命を担います。

私たちは、すべての人びとが生涯をとおして全人的に成長することを願い、すべてのいのちをかけがえのないものとして守り育てます。

私たちは、一人ひとりの人権を守り、正義と公正を求め、喜びを共にし痛みを分かちあう社会をめざします。

私たちは、アジア・太平洋地域の人びとへの歴史的責任を認識しつつ、世界の人びとと共に平和の実現に努めます。

2016年1月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料62円）
発行/公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区本町町7
TEL: 03-5367-6640 FAX: 03-5367-6641
URL: <http://www.ymcajapan.org/>
発行人/鳥田 茂 編集人/山根 一般
印刷/あかつき印刷株式会社

「第一に全国青年の諸君の為に、 第二には其の青年によって 改善さるべき社会の為に」

日本YMCA同盟総理事
鳥田 茂



「なんでです?」

この言葉は、現在放送中のNHK朝の連続テレビ小説「あさが来た」の主人公の口癖です。主人公のモデルは、幕末の封建時代に炭鉱や銀行、生命保険会社など、次々に事業を立ち上げ、さらには日本初の女子大学創設に尽力した広岡浅子です。浅子は、1919年に69歳で生涯を終えますが、1911年のクリスマスには大阪YMCA初代会長であった宮川経輝牧師から洗礼を受けます。1912年には日本YWCAの中央委員となり、亡くなる前年には大阪YWCAを創設するなど、晩年はキリスト教による青少年教育の発展に尽くしました。

そのうちのひとつが、2015年7月に創立100周年を迎えた日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘の建設資金の調達でした。浅子は、1915年7月24日の献堂式には来賓として出席し、その時、「第一に全国青年の諸君の為に、第二には其の青年によって改善さるべき社会の為に、満腔のお喜びを申し上げます」で始まる祝辞を述べています。残された記録からは、この祝辞がキリスト教に基づいた教育を受けた青年の力によって、日本社会が新しい時代へ導かれることへの希望と期待に満ちたものであったことがうかがえます。

日本YMCA基本原則には、「すべての人びとが生涯をとおして全人的に成長することを願い、すべてのいのちをかけがえのないものとして守り育てます」という一文があります。すなわち、すべての人が

乳幼児期から老齢期に至るまで心豊かに成長し、互いに仕え合って生きることができるよう全力を尽くすこと——年齢や性別、国籍や民族、能力や宗教の違いにかかわらず、一人ひとりが生き生きとした生涯を歩んでいくための「育ちの場」を提供し続けることが、YMCAの使命なのです。

YMCAでは、野外活動・キャンプ、体操、水泳、サッカーといった体を動かす活動や語学教育など、さまざまな「育ちの場」において、子どもたちに「思いやり」「誠実さ」「尊敬心」「責任感」の価値を大切に、自発的に仲間と共に生きる力を育てています。また、子どもたちは国際協力募金などに参加することにより、世界で何が起きているのかということに関心を向けながら成長していきます。今、YMCAが青年を対象に全国で取り組んでいる「地球市民」育成は、まさに世界の子どもや女性をはじめ、弱き立場に置かれた人びとの生きる権利を守り、平和な世界を実現するために、「改善さるべき社会の為に」何ができるかを、海外のユースと共に、話し合い、行動する場となっています。

この「地球市民」育成を支えてきた東山荘は、2016年夏に新しい本館が完成します。新しい一歩を踏み出す東山荘が、これからの100年も若者がその時代ごとの課題に対して「なんでです?」と問い掛け、他者のために祈り、生きるリーダーを育む場となることを祈ります。

ラポール

相手と向き合って心を合わせていくこと。(仏語:親和・共感的関係の意)

言葉の力

子どものころからいつも母親に、「あんたはできる子やねんけどなぁ」と通信簿を見せるたびに言われました。つまり「やればできる子(YDKと言らしい)」という意味です。この言葉によって私はどんな時も、成績が悪くても「オレはやればできる子、すごいねん」という言葉が心に響き、慰められたものです。

言葉には力があります。新約聖書「ルカによる福音書」5章27節から32節まで、イエスによってナンバされた(誘われた)レビという税金を集める人の記事が残っています。税金を集めるために収税所に座っていたレビに、イエスは通りがかりながら(1)、「わたしに従いなさい」と語り掛けます。人は普通そんな声を無視しますが、レビはなんと「何もかも捨てて立ち上がり、イエスに従った」(28節)のです。私は牧師ですからこの記事をよく知っていますが、なぜレビがイエスのナンバに従ったのか、なんとなく分かる気がするのです。それはイエスの言葉にはとんでもない力があるからだ。

私は中学を卒業する時、高校受験が嫌で、ちょうどアメリカに移住していたハルモニ(祖母)を頼って遊学しました。それから遊学を極め、退学、転校を繰り返し、人生を見失いました。その間も「オレはYDK」の言葉は心に響いておりましたが、「これはアカン!」と、父親が家出して遊びほうけていた私を日本に連れ戻しました。父親は教会の役員をしており、私も子どものころから教会へ行っていました。当時は「神も仏もあるかい、人生楽しまなアカン!」とほざいておりました。

日本に連れ戻されてから、教会の人に連れられてある青年のための集會に参加した時、説教者が偉そうに「さあ罪を悔い改めましょう」と叫びました。私はプライドが少し邪魔しましたけれど、神様に祈ってみました。「神様、こんなオレも赦してくれるんか?」こう祈った時、急に心が温かくなって(嘘じゃありません)赦された気がしました。その後、「誰を遣わそう、誰がわれわれのために行くだろう」という声が聞こえました。頭がおかしくなったかと思いましたが、その声が聞こえた瞬間、「私がここにあります。私を遣わしてください」と答えていた自分がいました。人生が変わりました。イエスの言葉の力は世界一です。

在日大韓基督教會
横浜教会牧師
李明忠

東山荘は、どなたでもご利用いただける宿泊研修施設です

- アクセス: 都内から高速バスで1時間半、東名高速道路御殿場インターチェンジから車で3分です。インターチェンジからの送迎をご希望の場合は、ご相談ください。
- お食事: 体にやさしく、あらゆる年代の方にお楽しみいただけるメニューを多数ご用意しています。富士、箱根山系のミネラル豊富な水を使っています。
- ご宿泊: ホテルタイプ(個室、ツインルーム)と研修タイプ(大部屋、ベッドルーム)の部屋があり、目的に合わせてお選びいただけます。
- ご利用例:
 - ・全国YMCAの活動場所
 - ・保育園や幼稚園の園外活動やお泊り保育
 - ・小学校の自然体験教室、中学・高校の学年別宿泊研修やクラブ合宿
 - ・大学・専門学校のオリエンテーション研修やゼミ・サークル合宿
 - ・教会の修養会やキャンプ
 - ・企業研修
 - ・趣味の集まりや同窓会、家族や友人との旅行など、個人でのご利用等
- お問い合わせ: 静岡県御殿場市東山1052 YMCA東山荘
電話:0550-83-1133(受付時間:7時~19時)
E-mail:tozanso@ymcajapan.org
http://www.ymcajapan.org/tozanso/



広岡浅子と東山荘

東山荘は「明日の世界を担う青少年及び指導者の育成」を願い、現在の学生YMCA夏季ゼミナールの前身である夏季学校の常設館として開設されました。当時、東山荘の設立に必要な費用約12,000円(当時)は、国内外からの募金により集められました。富士山の見える景観の素晴らしい場所に土地を得て建築工事が着工するも、当時は景気変動が激しく募金活動は思うように進まなかったという記録が残っています。特に、苦勞が多かった国内での募金活動を推進された中心人物の一人が、現在放送中のNHK朝の連続テレビ小説「あさが来た」の主人公のモデル、広岡浅子さんです。彼女の奔走により、三井男爵、岩崎男爵といった日本経済をけん引している方々から多大の寄附が寄せられ、自らも300円(当時)の寄附をされました。

東山荘の歴史の始まりには、広岡浅子さんの大きなご尽力があったのです。

「東山荘ものがたり」東山荘70年小史 1915-1985 (落合則男著)より

*現在、YMCA東山荘では「YMCA東山荘100年募金」を行っています。詳しくはこちらをご覧ください。
https://srv.asp.bridge.net/ymca/privacy/6



神と出会う

東山荘で草木や土、虫や鳥に出会う時、太陽の光や漆黒の闇に出会う時、そして人と出会う時……すべてのものは、そしてこの小さい自分も、神様につくられ生かされていることに気付かされます。

一人で、また友と共に、祈らずにはいられなくなると、私たちの足は富士山が見える「夕陽の丘」へと向かいます。丘を少し下った所には、礼拝堂「黙想館」。富士山に向かって目を上げ、神様を近くに感じながら、祈りの時を過ごします。

「YMCA地球市民育成プロジェクト」研修では、国内外のユースが東山荘で共に学び、平和を祈る

「黙想館」の講壇には十字架、その向こうにそびえる富士山を仰ぐ

自然と出会う

自然は天気一つでさえ思い通りになりません。けれども、諦めずに自然の中に出掛けたら、思いもよらない喜びや感動を与えてくれます。「YMCA東山荘」ネイチャープログラムは、自然の中での体験や感動の共有を通して、人と自然との真の出会いのきっかけを提供しています。

300年以上前の噴火と、度々起こる雪崩によって生まれる火山砂礫の急斜面を駆け下りる

どんな天気もいい天気。どんな時でも諦めない。どんな時でも楽しもう。

ダケカンバの幹を伝ってくる雨水をダイレクトキャッチ

東山荘オリジナルの特製そり「ざるボード」で冬を満喫



枯葉に飛び込んで、まみれる



お母さん、お父さんと一緒に、子どもたちも高い青空を見上げる

東日本大震災支援 ファミリリーキャンプ

三菱商事株式会社、JCCNC(アメリカの日系NPO、北カリフォルニア日本文化コミュニティセンター)をはじめとする企業や団体、多くの方々から支援をいただき、今もなお震災や原発事故の影響を受けている家族のためのキャンプを続けています。2011年7月から現在まで40回程度実施し、延べ1,700人を超える方が参加しました。

子どもへの被ばくを最小限にと願う親は、放射能の影響があると思われる地域で生活を続けているうちにますます孤独に陥り、疲弊していきます。しかしこのキャンプに来ると、同じ思いを持った家族とつながることができ、そのつながりが力になり、これからは子どもを守り続ける覚悟を新たにされた方もいらっしゃいます。自然災害による復興支援とはまた異なる、生き方の多様性を受け入れる柔軟なサポートを、東山荘は継続しています。



現在は「全国学生YMCA夏季ゼミナール」として、その伝統が受け継がれている

「ベビーネイチャープログラム」

「御殿場の
お母さんとお父さん、
子どもと共に」

東山荘は、御殿場の子育てサークル「タツチケアハウス Motherese (マザーリーズ)」との共催で、家族みんなで自然と触れ合う「ベビーネイチャープログラム」を行っています。除草剤を使用していない芝生をはたき、駆け回ったり、落ち葉のプールに飛び込んだり……五感をフル回転させた「ふれあい」が、家族の絆を育みます。子育てが初めての人も経験豊かな先輩も、お母さん、お父さん同士で交流を深めることができる、東山荘は出会いの場となっています。

1915年、初めて東山荘で実施された第25回夏季学校

第43回全国学生YMCA夏季ゼミナール
MISSION IMPOSSIBLE? ~2015年夏~

現在「全国学生YMCA夏季ゼミナール」として、その伝統が受け継がれている

先達たちが築いてきたこの夏季学校の伝統は、現在の「全国学生YMCA夏季ゼミナール」へと受け継がれています。2015年のテーマは「Mission Impossible?」。「ステレオタイプからの脱却」。全国22の大学から学生・OBOG・講師ら合計113人が集い、夏季ゼミナール史上最大規模での開催となりました。

「神と人」「自然と人」「人と人」が 出会うつてきた場所

— YMCA東山荘が100年大切にしてきたもの —

人と人が出会う

100年前の夏季学校から「全国学生YMCA夏季ゼミナール」へ

YMCA東山荘は2015年7月22日に創立100年を迎えました。100年の間、晴れの日も雨の日も、風の吹く日も雪が降り積もる日も、東山荘は富士山とともに数えきれないほどの出会いの瞬間を見守ってきました。人びとの人生に豊かさや、また時に変革を与えてくれた神様、自然、人との真の出会い。そんなたくさんの出会いがちりばめられている、YMCA東山荘の「今」をご紹介します。

NEWS

各地の動きをご紹介します。

●「YMCAリソースモビリゼーション・ワークショップ」参加報告 ー日本YMCA同盟

10月6～9日、YMCA東山荘にて「2015年度YMCAリソースモビリゼーション・ワークショップ」を開催しました。リソースモビリゼーションとは、人材を含むさまざまな資源の有効活用を意味します。講師としてお迎えしたジム・ベイシー氏は、北米YMCAのリソースモビリゼーション推進を担う中心メンバーの一人であり、日本での研修を初年度(2013年度)から担当されています。今回は、初年次、2年次、3年次研修の受講生、延べ54人が参加しました。

参加者の中から、ぐんまYMCA総主事の村上祐介さんに、以下のようなご報告をいただきました。

リソースモビリゼーションという、聞き慣れない単語から「?」となる人が多いかもしれません。私も以前はそうでしたが、研修に参加した今、これはファンドレイジング(外部資金の調達)の最先端の手法であると理解しました。

私がファンドレイジングという言葉を知ったのは、2007～2009年に米国ニューヨーク州のプロストバレーYMCAに出向していた時のこと。スーパーマーケット、道路、学校、教会といった日常生活の場で、非営利団体への寄附金を集める人びとの姿を見掛けることがたびたびありました。しかも子どもから年配の方まで、その行為を当たり前のように行っていることに驚きました。日米で何が違うのか……、「日米YMCAのファンドレイジング比較」がYMCAで働く上で、私のテーマとなりました。

今回は、具体的なケース作りからプロジェクトの計画、実施に至るまで、実践を交えてファンドレイジングのプロセスを学びました。このワークショップを通じて、YMCAに連なる人びとには大いなる可能性と希望があることを知りました。しかし、その人たちに活躍していただくためには、きっかけが必要です。YMCA運営に携わる理事をはじめとする役員、中心となる会員や職員が力を合わせることで、YMCAの有する多様な資源の活用を推進していくことができます。そのためには、YMCAのミッションを今一度振り返り、私たちが行っている働きが、どのように良き社会変革につながっているのかを見つめ直す必要があります。



ジム・ベイシー氏による「高層寄附と大規模寄附金活動」の学び

「リソースモビリゼーション」のプロセスは、YMCAの現在の働きを検証し、未来予想図を描く機会として生かされるのではないのでしょうか。 ぐんまYMCA 村上 祐介

●ベトナムYMCAと国際パートナーシップを締結 ー広島YMCA

広島YMCAは1961年のホノルルYMCAとのパートナーシップ締結を皮切りに、現在まで15のYMCAとパートナーシップを締結し、交流を深めてきました。そして2015年11月29日、16番目のパートナーシップYMCAとして、ベトナムYMCAとの締結調印に臨みました。

ベトナムYMCAはホーチミン市内から車で約1時間の場所にあり、主な事業は、幼稚園、職業訓練、障がい者への支援、国際交流事業などです。

広島YMCAとベトナムYMCAの関わりは、1995年ごろに始まります。2002年2月には「原爆写真展とベトナム戦跡めぐり」を実施しましたが、これは、熊本YMCAが主管した「ベトナムスタディツアー」と共に、日本ベトナム友好協会広島支部、日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会などと企画したものです。このアジアで最初の原爆写真展を実現できたのは、ベトナムYMCAとホーチミン市合同友好協会の協力があったからだったと言えます。当初、写真展は3日間の予定でしたが、学生や青年層を中心に大変な反響を呼び、3日間延長したと聞いています。戦争により甚大な被害を受け、今なおその後遺症と向き合っているベトナムと広島は互いに相通じる部分があり、この写真展の実施をきっかけに、ベトナムYMCAとのつながりは強まりました。

さらに2013年の広島YMCA創立75周年記念式典にベトナムYMCAからルー・ヴァン・ロク総主事夫妻をお招きした際、両YMCAのパートナーシップ締結への動きが具体化、また毎年8月に実施される「広島YMCAユースピースセミナー」に、2014、2015年と2年連続でベトナムからのユースが参加したこともあり、この度の締結に至りました。

ベトナムは、人口9,200万人余りで経済的に厳しい国ですが、国民の平均年齢27歳という若さと活気がみなぎっている国です。ベトナムYMCAのボランティアリーダーたちも若く勤勉であり、これからの国を自分たちでつくるという希望と熱意に満ちあふれていました。広島とベトナムは過去に不幸な歴史がありましたが、これからの時代を共に創っていく、新しいページが開かれたパートナーシップ締結式となりました。 広島YMCA 殿納 隆義



11月29日、両YMCAの理事長、総主事によりパートナーシップ締結の調印がなされた

アジア・世界のYMCAから

◆国連持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)が採択される ー世界YMCA同盟

国連によるミレニアム開発目標(MDGs:2000～2015年)に続き、持続可能な開発目標(SDGs:2015～2030年)が、2015年9月25日のニューヨークの国連本部での首脳会議において採択されました。SDGは貧困の廃絶と、人類が及ぼしている地球への悪影響を削減することを目指しています。この会議で行われたマラウさんのスピーチでは、彼女に連帯する若者の一人としてYMCAからも代表が同席しました。

◆第7回平和学校 第一・第二課程が修了 ーアジア・太平洋YMCA同盟

宗教間協働フォーラム(Interfaith Cooperation Forum: ICF)による第7回平和学校(School of Peace: SOP)が8月1日から9月29日の期間にカンボジアで開催されました。研修生は、アイデンティティ、抵抗、解放、貧困、開発、人権について学び、2016年1月には宗教間の正義と平和のコミュニティ構築について1カ月間学ぶ予定です。研修生には、研修後にそれぞれが所属するコミュニティで、平和を実現するための取り組みが期待されています。



貧困と人権について報告するフィリピンからの参加者、アブダルさん

※宗教間協働フォーラム(Interfaith Cooperation Forum)は、アジア・太平洋YMCA同盟とアジア・キリスト教協議会によって2004年組織された、アジアにおける経済的、政治的、社会的正義を、宗教を越えて促進することを目的とした団体です。

※平和学校(School of Peace)は、ICFによって設立された研修プログラムです。アジア各地から青年を招き、他の宗教についての理解を深め、平和に暮らすことの重要性を講義やフィールドトリップを通じて学びます。

◆韓国YMCA全国連盟が歴史教科書国定化反対を表明 ー韓国YMCA全国連盟

韓国では政府の韓国史教科書国定化の動きに対し、市民の反対が強まっています。2015年11月3日に韓国YMCA全国連盟は、政府のこの動きを、画一化した唯一の歴史観を未来の世に注ぎ込もうとする暴力的な行為であると認識し、即刻中断することを要求しました。多様な歴史解釈と、それを選択する権利を教育の主体である青年から奪い、一つの解釈だけを強要しようとするのは、時代に逆行することだと主張しています。

●上記トピックの詳細(隔月PDF)は、日本YMCA同盟HPの「世界のYMCA」のページよりご覧いただけます(一部、英語のみ)。 <http://www.ymcajapan.org/world/index.html>

●「舞鶴観光おもてなし講座」を開催 ー京都YMCA



11月12日の第7回講座は、茶道家の森乃塚部さんによる「人を楽しませる話術」

京都YMCAは、京都府北部に位置する舞鶴市の誘致要請を受け、2015年4月に舞鶴YMCA国際福祉専門学校を設置しました。現在、1期生が介護福祉や国際観光分野の専門職を目指して勉強しています。

舞鶴市は観光庁が観光立国の実現に向け、滞在交流型観光を行うことができると認定している13の観光圏の一つ、「海の京都観光圏(京都府北部5市2町)」に属しています。また、今年10月には舞鶴引揚記念館所蔵資料が「ユネスコ世界記憶遺産」に登録されました。

このような背景から舞鶴市は観光に力を入れており、ここ数年、舞鶴市主催の観光に特化した市民向け講座を開催してきました。2015年度は、その講座をYMCAが主管し、YMCAの持つ人材を生かして、「舞鶴観光おもてなし講座」を開催しました。講座の趣旨は、市民が観光資源や観光地域づくりを学び、地域への関心や愛着を深める、さらにはおもてなしテクニックなどのスキルを向上して、さまざまな観光事業で活躍できる人材を養成することです。

講座は9月から11月までに全9回、「観光でいかに地域振興を図るか」「映画などで使われた舞鶴口ケ地の紹介」の他、YMCA会員であった落語家による「人を楽しませる話術」、元キャビンアテンダントで本校のマナー講師による「おもてなしマナーテクニック」など、舞鶴市と協働して毎回多彩な講師とテーマで行い、延べ161人の10代から70代までの幅広い年齢層の方々が受講しました。

受講生は、自身の住んでいる「まち」の魅力や歴史・観光資源を再発見したようです。受講後のアンケートでは、舞鶴の新たな魅力を発見できたという声や、今後観光の仕事に生かしたいという意見が多く寄せられ、講座の成果を感じました。

舞鶴YMCAが多くの方に愛され、地域に貢献できるよう、今後もさまざまな講座を提供していきたいと思っております。 京都YMCA 藤原 貴子